港湾振興便り

2019．8

第147号

＊：＊：＊：

●第４回坂出ニューポートプラン検討会議を開催、プランをとりまとめ坂出市長へ手交
（四国地方整備局　高松港湾・空港整備事務所）

●海洋環境整備船「美讃」一般公開を開催、来場者が過去最高の1,800人超
（四国地方整備局　高松港湾・空港整備事務所）

●新居浜港みなとオアシス登録1周年イベント開催
（新居浜港務局）

●ユーグレナ石垣港離島ターミナルにプラネタリウム施設がオープンしました！
（沖縄総合事務局　石垣港湾事務所）

●「ボイジャー・オブ・ザ・シーズ」が石垣港に、
「MSCスプレンディダ」が中城湾港に初寄港しました！
（沖縄総合事務局　港湾計画課）

３　お知らせ

◇イベント名：「東京湾ぐるっとスタンプラリー」開催中！（8/1～11/30）

◇イベント名：知多市制施行50周年プレ事業　第6回新舞子ビーチフェスティバル

＊：

１　ポートエッセイ

―快進撃続けるアパグループ
元谷代表の対談発言に学ぶ―
～ 日本港湾振興団体連合会会長（元新潟市長）　篠田 昭 ～

＊：

〈全国で1万9千室を建築・設計中〉

いま、日本で最も勢いのあるホテル・マンション企業と言えば、アパグループだろう。私の住む新潟市でも新幹線駅近くに新潟で最大規模の「千室のホテルとマンション建設」計画を打ち上げ、注目を浴びた。全国では現在、30階建て以上を4棟、20階建て以上6棟をはじめ、52棟1万9千室以上のホテルを建築・設計中という。知遇を得た私にも、開業披露式典のご案内をいただくが、その頻度が半端ではない。毎月、複数のホテルが開業しているが、この数字を聞けばそれも当然だ。9月20日には横浜に日本最大級となる2千3百室以上の「アパホテル＆リゾート・横浜ベイタワーがオープンの予定だ。

〈宮田文化庁長官と対談〉

2020年の東京オリンピック・パラリンピックを控え、インバウンドの取り込みも図っているのだろうが、驚くべき急成長だ。アパグループの情報誌「Apple　Town」最新号に、元谷外志雄代表と宮田亮平・文化庁長官との対談が掲載されている。アパの快進撃の秘密を、対談から紹介する。

〈顔役らに県の取引業免許で対抗〉

アパが創業して再来年で50年になるそうだ。元谷氏は27歳で起業し、30代で今の事業の基礎を築かれるが、自らの30代を「波乱万丈で阿修羅のごとく立ち回る必要のあった時代でした」と振り返る。注文住宅から建売住宅、賃貸マンション、分譲マンション、そしてホテルへと事業を展開してきた。不動産業を営むに当たり、その土地で幅を利かせている「顔役」との折衝が必要となる。元谷氏は地元の石川県の宅地建物取引業の免許を得て、「石川県はオレの縄張りだと県が保証してくれている」と公的なお

墨付きを最大限活用して、顔役らに対抗したそうだ。

〈「同じ家が並ぶのは気持ち悪い」〉

住宅産業に参入した時の最大の売りは、「手元におカネがなくとも、返済額が一定のローンで家を建てられるようにする『元利均等返済の長期住宅ローン制度』でした。当時は建築資金の半分を現金で貯めないと、残り半分の資金を貸してくれる金融機関がなかったからだった。収益性を求めて建売住宅に移行した時にも、多くの業者が同じ家をずらりと建築するのに対し、「街並みを考えて、異なるデザインの家が連なる建売住宅を販売した」そうだ。「だって、一つなら素晴らしいデザインでも、同じものが並ぶと気持ち悪い」という当たり前の感覚を活かしたと言う。

〈自転車保管で大儲け〉

中学生の時に父を亡くしたこともあって、「子どもの頃から自らカネを稼ぎ、一家の家計のやり繰りをしてきた」と言う。そのため、人のやらないことにも目を付けた。家の近くにあった競技場に、花火大会や大相撲の巡業などのイベントが開かれる際、主要な移動手段は自転車だったのにその保管場所が確保されていなかった。ここに目を付け「一台15円で預かったら、一日2百台になることもあった。売上3千円は当時のサラリーマンの平均月給に近いものだった」と言う。

〈大浴場設置は「水道費が安くなるから」〉

アパが急成長した最大のポイントはホテルへの参入だった。「分譲マンションが完売すると一気に大きな利益が生まれますから、節税のためには利益を減価償却で損益通算する事業が必要になってきます。それがホテルだったのです」と元谷氏。平日を利用するビジネスマンに的を絞った。「宿泊費は会社の経費で賄われるが、ホテルを選ぶのは宿泊客本人。その本人にご褒美を挙げれば、また泊まってくれる」と考え、5万円分宿泊すれば、宿泊客本人に5千円のキャッシュバックがある「会員システム」を導入した。その目論見は見事的中した。アパホテルの売りである大浴場も、「日本人が大好き」という以外に、「3百室以上のホテルだと、大浴場をつくったほうが光熱・水道費が安くなる」という理由もあるのだそうだ。

〈「遊びを仕事に、仕事を遊びに」〉

「好きなことをやって、好きなことを言って…」「遊びを仕事に、仕事を遊びにしている感覚」と言う元谷氏。「やりたいことをやり尽して生きるのが、人間の一番の幸せですね」とも語る。アパの快進撃は、まだまだ続きそうだ。元谷流から我々が学ぶことも多いと感ずる。

＊：

2 トピック

＊：

●岩内港で初の大規模地震・津波総合防災訓練を実施

（北海道開発局　港湾空港部　空港･防災課）

7月27日（土）、北海道開発局及び岩内町の共催により、道内唯一の特定地域振興重要港湾である岩内港において、初の大規模地震・津波総合防災訓練を行いました。

訓練は、北海道南西沖を震源とする大規模地震が発生し、岩内町で震度5強を観測後、大津波警報が発表され、最大4．7mの津波が到達したとの想定で、海保、自衛隊、警察、消防など19の機関・団体から200名を超える参加者とともに、昨年の北海道胆振東部地震で被災者の支援活動に活躍した北陸地方整備局の大型浚渫兼油回収船「白山（はくさん）」や小樽海上保安部の巡視船「しれとこ」などの船舶と、自衛隊、警察、消防、救急等の車両が参加して実施しました。

開催挨拶では、上岡岩内町長から「昨年の地震でも物資・給水支援で活躍した「白山」を迎えての訓練は非常に意義がある。」とのお言葉がありました。また、閉会式では、北海道開発局の魚住港湾空港部長から「関係機関一同で準備を行い、連絡体制を確認しつつ訓練に取り組んだことは非常に意義があった。」と述べるとともに、無事に訓練が終了したことに対して謝意を表しました。

上岡岩内町長からの開催挨拶

緊急支援物資輸送訓練

被災状況調査訓練

漂流者捜索・救助訓練

●山形県酒田海洋センターで「海の生き物ふれあい体験」を開催しました！

（山形県　港湾事務所）

６月29日（土）及び30日（日）、山形県酒田海洋センターにて「海の生き物ふれあい体験」を開催し、２日間で303名の方が来場しました。

当日は、タッチプールで山形県の沿岸に生息する海の生き物に直に触れて観察していただいたり、県立加茂水産高等学校の生徒による生き物の解説等を行いました。

タッチプールでは、ヒラメ、ウニ、ヒトデ、ナマコ、ヤドカリなど、普段触ることのない生き物に、来場者はおっかなびっくりしながら触り、歓声をあげていました。また、ミズクラゲや小さなオニオコゼの展示も行い、珍しい海の生き物に子どもたちだけでなく大人の方にも大変興味を持っていただけました。

来場者からは「珍しい生き物とふれあうことができ、海への興味・関心を持つことができる良いイベントだった」などの意見をいただき、とても好評なイベントとなりました。

●「2019発見！酒田みなとの探検隊」を開催しました！

（山形県　港湾事務所）

７月６日（土）、山形県内の小学生と保護者を対象にした「2019発見！酒田みなとの探検隊」を開催し、57名の親子が参加しました。

「酒田みなとの探検隊」は、「みなと」の学習や山形県酒田海洋センターの見学等を通して、酒田港と山形県の海に対する理解を深めていただくために、毎年開催しているイベントです。

「みなと」の学習では、酒田港に入港する船の種類や貿易拠点としての酒田港の役割などを学びました。

山形県酒田海洋センター見学では、北前船のコーナーや、大きな模型、酒田港の昔と今の姿を紹介するパネルなどを見ながら、身近な港と海の大切さを改めて感じていただきました。

波消しブロックお絵かき体験では、酒田港のブロックヤードで、大きなブロックをキャンバスに、６色の絵の具で思い思いに筆を走らせ、完成後に参加者全員で記念撮影をしました。

酒田港クルーズでは、酒田市の定期船「とびしま」に乗船し、港湾施設についての説明放送を聴きながら、夕暮れの海の景色を楽しんでいただきました。

波消しブロックお絵かき体験

酒田港クルーズ

●酒田港国際ターミナルで新ガントリークレーンの運用が始まりました！

（山形県　港湾事務所）

７月５日（金）、酒田港国際ターミナルで、更新・大型化工事が完了したガントリークレーン１号機の荷役作業が初めて行われました。

本工事は、コンテナ取扱量の増加やコンテナ船の大型化に対応するために実施したもので、当日は中国・韓国航路のコンテナ船が寄港し、コンテナ約200個を荷役しました。

現在港湾機能強化のため岸壁延伸工事を進めており、工事が完了すれば、１，000TEU級のコンテナ船が2隻同時着岸しても積み降ろしが可能になります。

また、山形県は、これまで酒田港国際ターミナルでゲートの新設や道路の拡充を進めてきましたが、今後はふ頭用地の造成等を進めていく予定です。

4/10 専用運搬船から岸壁へ据付（写真中央）

7/5 初荷役の様子

●最後の沈埋函（ちんまいかん）の沈設（ちんせつ）が完了し、海底トンネルが貫通！
～東京港臨港道路南北線整備事業～

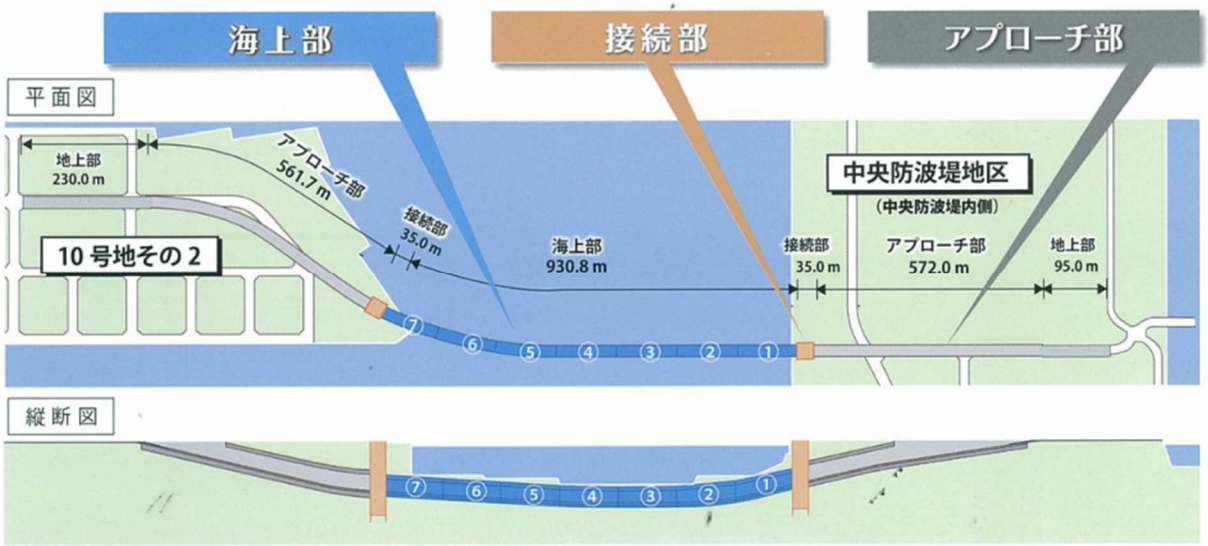
（関東地方整備局　東京港湾事務所）

７月６日（土）、「臨港道路南北線」の最後の沈埋函の沈設作業が完了し、海底トンネルが貫通しました。

「臨港道路南北線」は、東京港の有明地区（１０号地その２）と中央防波堤地区を結ぶ海底トンネルで、鋼製の殻（鋼殻（こうかく））とコンクリートからなる沈埋函を海中に沈めて接続する「沈埋トンネル工法」を採用しております。

１１日（木）には、工事関係者の方々と貫通式を行い、最後に沈設した６号函と５号函を隔てるハッチを開き、トンネルが貫通した後、関係者による通り初めを行いました。

「臨港道路南北線」は、この後内部の舗装等が行われ、２０２０年の東京オリンピック・パラリンピック大会までの開通を目指しております。



臨港道路南北線平面図、断面図

貫通式の様子

集合写真

●海王丸パークフェスティバル開催！

（公益財団法人　伏木富山港・海王丸財団）

７月１３日（土）～１５日（月・祝）、「海の日」を記念した「海王丸パークフェスティバル」が、伏木富山港新湊地区の海王丸パークで開催されました。１５日の海の日には、海王丸で登檣礼（とうしょうれい）・総帆展帆（そうはんてんぱん）が行われました。登檣礼は帆船の出航時に船員を帆桁（ヤード）などに配

置し、見送りに来たお客様に感謝の気持ちを表したもので、帆船において最高の儀礼とされ、海王丸では年に一度海の日にだけ実施しています。船員がヤードに登り「海の日おめでとう」と唱和すると大勢の観客から盛んな拍手が送られました。登檣礼に引き続き全ての帆をひろげる総帆展帆が行われ、1時間余りで全29枚の帆が広げられました。

また、海上保安庁巡視船「のりくら」と巡視艇「はまゆき」、海上自衛隊のミサイル艇「はやぶさ」の一般公開や10月に富山県で開催される「世界で最も美しい湾クラブ世界総会in富山」開催記念親子ワークショップが行われ、多くの家族連れなどで賑わいました。

登檣礼

総帆展帆

●「第14回津なぎさまちフェスタ」開催！

（津市　都市計画部　交通政策課）

令和元年7月28日（日）「第14回津なぎさまちフェスタ」が開催され、津なぎさまちがたくさんのお客さんで賑わいました。当該イベントは、訪れた方に津なぎさまちや津の海に親しんでいただくことを目的として、津なぎさまちイメージアップ事業実行委員会が毎年企画開催しています。

URL：https://www.nagisa.city.tsu.mie.jp

●開港120周年記念 四日市港まつりを開催しました。

（四日市港管理組合）

四日市港の開港120周年を記念して、8月3日、4日に四日市港まつりを開催しました。

帆船海王丸の寄港をはじめ、カッターレース大会の開催や各種船舶の体験乗船・一般公開、はたらく車の紹介・展示等を行い、多くの来場者がありました。

帆船海王丸の寄港

カッターレース大会

プロジェクションマッピング
（四日市港ポートビル）

●港を彩る大輪の花火「和歌山港まつり花火大会」

（近畿地方整備局　和歌山港湾事務所）

令和元年7月28日（日）に「第67回和歌山港まつり花火大会」が和歌山下津港の中ふ頭、万トンバース(和歌山県和歌山市)で開催されました。

「港まつり」は港の安全を祈願し、市民に港に対する関心を持ってもらうため、昭和28年に始まり平成、令和と続いてきました。夏の風物詩として、和歌山市内外から毎年約3万人の市民が訪れます。

南海電鉄和歌山港駅前の臨港道路から続く会場に夜店が立ち並び、港内沖合300mに係留した台船から、真夏の夜空に次々と打ちあがる、色とりどりの花火を大勢が楽しみました。

港まつり花火大会の様子

●「海道見守り隊」に関する協定を締結　－海道見守り隊が始動します！－

（中国地方整備局　港湾空港部）

記憶に新しい平成30年7月豪雨の際、海上漂流物（流木等）による問題への速やかな対応等が課題となりました。そこで、官民が一体となり、海洋汚染防除業務などの体制強化を図るため、航行船舶の安全、安心を確保する事を目的として、「海道見守り隊」を発足。瀬戸内海で定期フェリーを運航している、広島県旅客船協会、山口県旅客船協会、石崎汽船（株）、松山・小倉フェリー（株）、大三島ブルーライン（株）、今治市の6団体と中国地方整備局は、令和元年6月19日、「海道見守り隊」に関する協定

締結式を開催しました。

具体的な協定内容は、中国地方整備局が管轄している開発保全航路、緊急確保航路及び海洋汚染防除に関する業務を実施している海域において、漂流物、違法な土砂採集等を発見した際に、情報を提供して頂き、第六管区海上保安本部と連携し、船舶事故等のおそれがある場合、早期に対応することで航行船舶の安全、安心を確保するものです。

はじめに主催者を代表して、喜安和秀国土交通省中国地方整備局副局長が挨拶しました。「昨年の豪雨災害では流木等の流出が多く、他の整備局からの支援もあり、1カ月で約1年分のゴミを 回収しました。ゴミ回収に当たり、瀬戸内海を航行している船会社の皆さんからの情報は、業務を進めていく上で非常に効果的でした。今回の協定を結ばせていただくのは非常にありがたいことであり、非常に意義があると思います。本日の協定を機に、お互いが連携し海をよりきれいに、航路の安全を確保できればと思います。」と協定の意義や今後の活動への期待を述べました。続いて、坂井功国土交通省中国地方整備局港湾空港部長が制度の概要を説明した後、協定の締結に移り各社代表と喜安副局長が署名し、協定を締結しました。

固い握手で、海の安全、安心を
改めて誓い合いました。

記念撮影の後、各社代表の挨拶です。はじめに、仁田一郎広島県旅客船協会会長が災害を振り返り、「昨年の災害の時に、鉄道も高速道路も一般道路も不通になり、船だけが広島と呉を結ぶ唯一の交通機関だという状況の中で、海上交通の大切さがクローズアップされました。唯一残された交通機関ではありますが、我々はそのとき海上のゴミに非常に悩まされていて、本当に綱渡りのような毎日でした。ゴミに当たるとプロペラが破損して、ドックに入らなければならない。そうすると役目を果たせなくなります。そんな最中整備局さんが素早い対応で回収作業をされ、本当に感謝しております。そういう教訓の中でこのような協定が生まれてきたのだと思います。今後は海道見守り隊の一員として、より迅速で的確な情報提供を行い、速やかに航路の安全確保をしていただけるように我々も協力いたします。」と挨拶しました。続いて清水聖山口県旅客船協会会長、松木武士石崎汽船（株）安全管理者兼運航管理者代行、永井博松山・小倉フェリー（株）営業課長が次々に挨拶に立ち、今後の協力を約しました。

令和元年６月１９日
中国地方整備局 会議室にて

●第４回坂出ニューポートプラン検討会議を開催、プランをとりまとめ坂出市長へ手交

（四国地方整備局　高松港湾・空港整備事務所）

６月２５日、坂出市とともに坂出ニューポートプラン検討会議を開催致しました。

この検討会議は、坂出港の競争力を向上させるとともに、地域住民の憩いの場として利用しやすい港づくり等を推進するために、坂出港が今後１０年間に取り組むべき方向性を「坂出ニューポートプラン」として取りまとめる目的で開催しています。４回目となる今回の検討会議において、プランを取りまとめました。

今後は官民の協力体制を築き様々な活動を進めるとともに、必要に応じて坂出ニューポートプランの見直しを行う予定です。

坂出港

坂出ニューポートプラン検討会議

●海洋環境整備船「美讃」一般公開を開催、来場者が過去最高の1,800人超

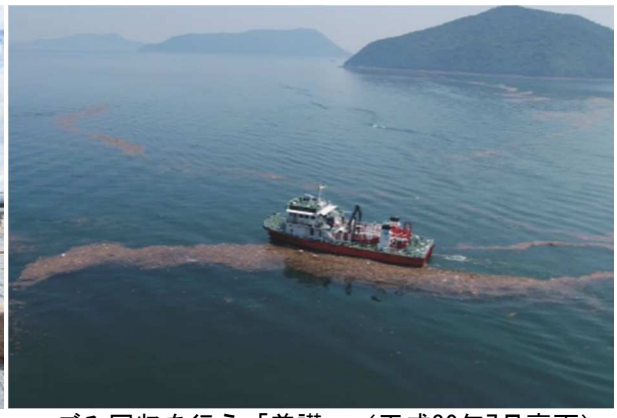
（四国地方整備局　高松港湾・空港整備事務所）

７月15日の海の日、サンポート高松において当所と高松港湾空港技術調査事務所は、海洋環境整備船「美讃」の一般公開と「津波・高潮」に関するパネル展示を共同で開催致しました。

「美讃」の一般公開では、過去最高となる1,800人を超える方々に海上で漂流物を回収する「美讃」の仕組み等を見学頂きました。また、「津波・高潮」に関するパネル展示では、国立研究開発法人 海上・港湾・航空技術研究所 港湾空港技術研究所で撮影された実験映像を用いて、津波や高潮に対する説明を分かり易く行いました。

「美讃」の役割については、平成30年7月豪雨での活動状況がメディアに取り上げられたこと等から「知っている」という方も多くいらっしゃいました。引き続き、関係各所と連携して「美讃」の役割等について理解を深めていただけるよう取り組んで行きたいと考えています。

美讃一般公開の様子



ごみ回収を行う「美讃」（平成30年7月豪雨）

●新居浜港みなとオアシス登録1周年イベント開催

（新居浜港務局）

令和元年7月7日、みなとオアシスマリンパーク新居浜では、みなとオアシス登録1周年を記念して、ビーチバレーボール元オリンピック選手の佐伯美香さんを迎えたビーチバレーボール大会や大型ウォータースライダー、パトカー・白バイ・消防車の展示、四国地方整備局松山港湾・空港整備事務所の港湾業務艇「くるしま」を使った出前講座など、次代を担う子どもたちをターゲットにイベントを開催しました。梅雨の合間の晴天に恵まれ、7千人の市民が集い、各イベントを楽しみました。

●ユーグレナ石垣港離島ターミナルにプラネタリウム施設がオープンしました！

（沖縄総合事務局　石垣港湾事務所）

令和元年7月18日に日本初の星空保護区に指定された八重山諸島のシンボル的な施設として、ユーグレナ石垣港離島ターミナル内に日本最南端の傾斜型投影式プラネタリウムがオープンしました。

超高解像度のプロジェクター2台を駆使し、9mのドーム全天に4Kの高解像度・高臨場感による3D映像で石垣島から見える星空を再現、さらには、地球上から宇宙の果てまで、距離も時空も超える宇宙旅行体験が可能です。

石垣島の新たな観光スポットとして、このドームシアターで八重山の自然や文化を体感して、ユーグレナ離島ターミナルからリアルの石垣島及び周辺離島観光をスタートさせてみてはいかがでしょうか。

いしがき島　星ノ海プラネタリウム

9mのドームに
46席を収容

待合室にある星座
のモニュメント

●「ボイジャー・オブ・ザ・シーズ」が石垣港に、「MSCスプレンディダ」が中城湾港に初寄港しました！

（沖縄総合事務局　港湾計画課）

７月２９日、ロイヤル・カリビアン・インターナショナル社所属の「ボイジャー・オブ・ザ・シーズ(138,194 GT）」が石垣港へ初寄港しました。 また、８月４日、MSCクルーズ社所属の「MSC スプレンディダ（137,936 GT）」が中城湾港へ初寄港しました。両港では初寄港を歓迎するセレモニーが行われ、花束贈呈や記念品の交換が行われました。

ボイジャー・オブ・ザ・シーズ

船内で記念撮影（石垣港）

MSCｽﾌﾟﾚﾝﾃﾞｨﾀﾞ船内にて記念撮影（中城湾港）

＊：

３　お知らせ（みなとのイベント情報）

＊：

◇イベント名：「東京湾ぐるっとスタンプラリー」開催中！（8/1～11/30）

東京湾の再生活動に取り組んでいる東京湾再生官民連携フォーラムの「東京湾の窓プロジェクトチーム」は、東京湾への関心・興味をより一層引き出すため、８月１日～１１月３０日の間「東京湾ぐるっとスタンプラリー」を開催しています。

関東地方整備局では、東京湾再生への活動の一環としてこの活動に共催しております。

東京湾を取り巻く14の施設を巡り、東京湾の魅力を発見してください！

【開催期間】　８月１日（木）～１１月３０日（土）

【主　　催】　東京湾の窓プロジェクトチーム、スタンプラリー事務局、大森　海苔ふるさと館、谷津干潟ワイズユース・パートナーズ

【共　　催】　関東地方整備局、東京湾再生官民連携フォーラム

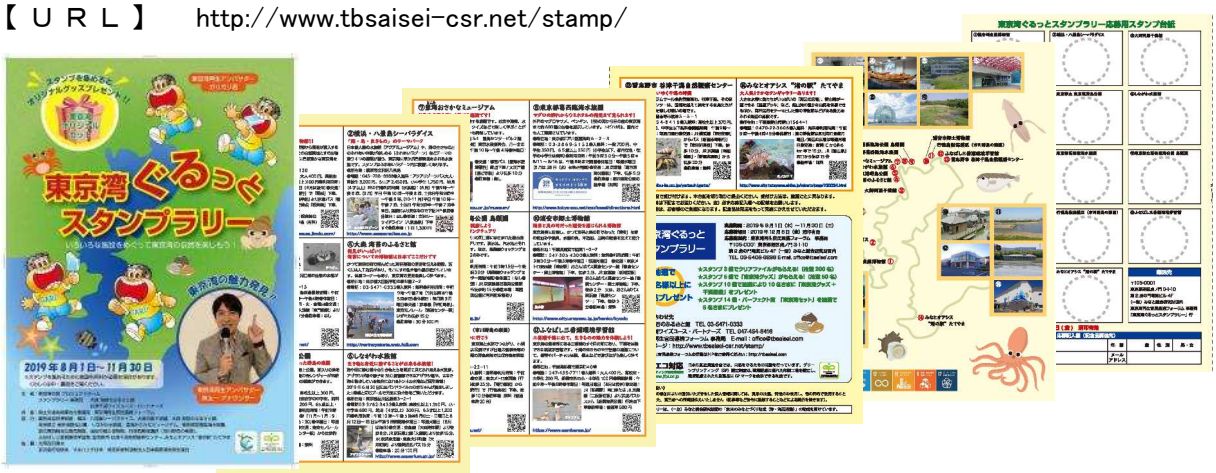
【協　　力】　横浜・八景島シーパラダイスなど14施設

【協　　賛】　京浜急行電鉄（株）など

【問合せ先】　大森　海苔ふるさと館　TEL　03－5471－0333

谷津干潟ワイズユース・パートナーズ　TEL　047－454－8416

【ＵＲＬ】　http://www.tbsaisei-csr.net/stamp/



◇イベント名：知多市制施行50周年プレ事業　第6回新舞子ビーチフェスティバル

【開催日時】　令和元年8月31日（土）　※予備日：9月1日（日）
15：00～20：00（花火大会：19:00～19:45）

【場　　所】　新舞子マリンパーク

【概　　要】　知多市ふるさと観光大使によるステージイベントや地元業者による露店が会場を盛り上げ、フィナーレには花火大会が開催されます。
今年は、市制施行50周年記念プレ事業としてミュージック花火も行います。

【問合せ先】　新舞子ビーチフェスティバル実行委員会事務局（知多市商工振興課内）
TEL：0562-36-2664

＊：＊：＊：本メールマガジンに関するお問合せやご意見、また情報の送り先：＊：＊：＊＊：＊：＊：

日本港湾振興団体連合会事務局
〒105-0002 港区愛宕1－3－4
TEL：03-5776-0630 FAX：03-5776-0631
e-mail：bcf06323@nifty.com

＊：